



TEMPUS

テンプス

2004年(平成16年) 16号



も く じ

平成15年度 貝塚市指定文化財
本願寺門主の絵像など26幅を指定
文化財トピック

平成15(2003)年度埋蔵文化財発掘調査
市内の古文書調査から

平成15年度 貝塚市指定文化財

ほんがんじもんしゅ

本願寺門主の絵像など26幅を指定

平成15年度の市文化財として、貝塚市文化財保護条例にもとづき、平成16年1月30日付けで願泉寺所蔵の親鸞聖人画像（しんらんしょうにんがぞう）など本願寺歴代門主画像23組26幅を指定しました。

願泉寺は、山号を「金涼山（きんりょうざん）」といい、江戸時代を通じ、住職ト半家は領主として貝塚寺内を支配していました。江戸時代初期には本願寺が東西に分かれ、門下の寺院はどちらかに所属しなければなりませんでした。願泉寺は戦前まで両本願寺に属していた全国的にも例のない寺院です。このため、両本願寺の歴代門主画像が揃っていることが大きな特徴で、全国でも唯一の例です。

今回、指定した画像は門主が交替するたびに、新しい門主から先代の画像を下付されたものです。どれも非常に保存状態が良く、破損や後世の補彩がほとんどみられず、製作当初の状態を今に伝えています。画像の裏側に記された銘文から、歴代門主の没後早々に下付されているものが多く、願泉寺が両本願寺と密接な関係を築いていたことがわかります。

これらのことから、願泉寺の歴代門主画像は歴史的、絵画的にも非常に重要な資料といえるもので、このたび市文化財に指定しました。なお、指定した絵像は、平成16年度に郷土資料展示室で展示する予定です。



絹本著色 親鸞聖人画像
（本願寺開祖） 1幅
115.4×54.9cm
室町時代

* 慶長12年(1607)の裏書追記と同時に願泉寺の寺号があたえられたことが推測できる重要なもの

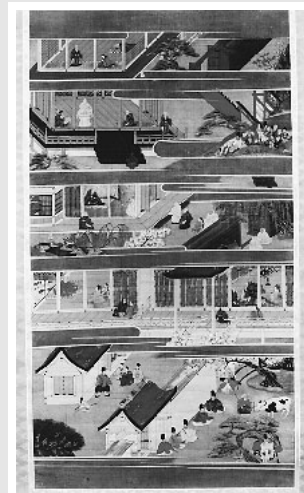


絹本著色 証如上人画像
（本願寺第10世） 1幅
97.4×41.8cm
室町時代



絹本著色 顕如上人画像
（本願寺第11世） 1幅
105.2×48.8cm
文禄2年(1593)

* 文禄2年(1593)閏9月に引退させられる教如が本願寺を継職している限られた時期に下付されたもの



絹本著色 親鸞聖人絵伝
4幅（写真は第1幅）
各141.1×76.7cm
慶長12年(1607)

* 東西本願寺分派による絵師集団の関係を示す重要な絵画史料



絹本著色 親鸞聖人画像
(本願寺開祖) 1幅
110.8×73.3cm
慶長18年(1613)

*斜め向きの画像がほとんどであるなか、「真向き御影」と呼ばれる数少ないもの



絹本著色 観如上人画像
1幅
78.4×26.0cm
慶長18年(1613)

*15歳で没した東本願寺教如の第2子の画像で、全国的にも数少ない



絹本著色 教如上人画像
(東本願寺第12世)
附収納箱 1幅
110.7×50.6cm
元和9年(1623)

*黒衣ではなく、色衣を着た教如画像は珍しく、本願寺教団における願泉寺の重要性をうかがうことができる



絹本著色 准如上人画像
(西本願寺第12世) 1幅
106.3×47.6cm
寛永8年(1631)



絹本著色 宣如上人画像
(東本願寺第13世)
附収納箱 1幅
108.5×49.7cm
万治2年(1659)



絹本著色 琢如上人画像
(東本願寺第14世)
附収納箱 1幅
111.4×50.8cm
寛文13年(1673)



絹本著色 良如上人画像
 (西本願寺第13世)
 附収納箱 1幅
 116.3×48.3cm
 元禄7年(1694)



絹本著色 常如上人画像
 (東本願寺第15世)
 附収納箱 1幅
 109.7×50.8cm
 元禄7年(1694)

* 没後1ヶ月余りで製作・下付されたもの



絹本著色 蓮如上人画像
 (本願寺第8世)
 附収納箱並包紙 1幅
 98.1×40.3cm
 元禄11年(1698)

* 画像を製作した絵師や表具師の印がある包紙が保存



絹本著色 一如上人画像
 (東本願寺第16世) 1幅
 110.0×51.1cm
 元禄13年(1700)



絹本著色 寂如上人画像
 (西本願寺第14世)
 附収納箱 1幅
 117.0×54.8cm
 享保10年(1725)



絹本著色 住如上人画像
 (西本願寺第15世)
 附収納箱 1幅
 119.5×61.0cm
 元文5年(1740)



絹本著色 湛如上人画像
 (西本願寺第16世)
 附収納箱 1幅
 111.8×55.1cm
 延享元年(1744)



絹本著色 真如上人画像
 (東本願寺第17世)
 附収納箱 1幅
 111.1×51.5cm
 延享2年(1745)



絹本著色 従如上人画像
 (東本願寺第18世)
 附収納箱 1幅
 111.0×51.0cm
 宝暦10年(1760)



絹本著色 法如上人画像
 (西本願寺第17世) 1幅
 110.0×52.3cm
 寛政2年(1790)

* 「貝塚坊舎願泉寺」の裏書きがあり、本願寺でも重要な寺院として認知されていたことを示すもの



絹本著色 乗如上人画像
 (東本願寺第19世)
 附収納箱 1幅
 109.2×50.7cm
 寛政11年(1799)



絹本著色 文如上人画像
 (西本願寺第18世)
 附収納箱 1幅
 122.2×62.8cm
 寛政11年(1799)



絹本著色 本如上人画像
 (西本願寺第19世)
 附収納箱並包紙 1幅
 111.0×52.3cm
 文政10年(1827)

文化財トピック 最近の文化財ニュースをお届けします！！

平成15年度郷土資料展示室企画展 3

いわはしぜん べ い 『岩橋善兵衛とその時代』開催！

江戸時代に望遠鏡、天体観測道具などを作った岩橋善兵衛の関連資料が平成15年1月12日付で、大阪府有形文化財に指定されたことを記念して（平成15年11月15日～平成16年1月11日）「岩橋善兵衛とその時代」をテーマに開催しました。



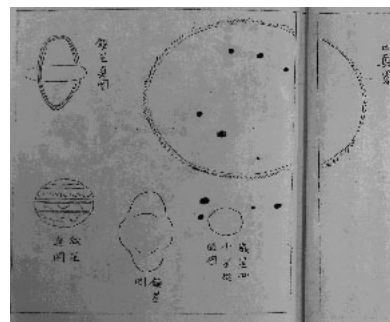
岩橋善兵衛は、江戸時代、寛政（かんせい）の改暦事業や伊能忠敬（いのうただたか）の全国測量に使われた望遠鏡を製作した貝塚生まれの人です。本展においては、善兵衛のご子孫の岩橋信治氏所蔵の善兵衛著『平天儀図解』（へいてんぎずかい）や望遠鏡細工の覚帳「サイクツモリ□」帳など8点をはじめ、大阪歴史博物館からは当時、中国から輸入された最新の天文学（暦学）書『曆象考成後編』（れきしょうこうせいこうへん）や伊勢暦（寛政十一年暦）など8点、大阪府立中之島図書館からは大阪の町人学者山片蟠桃（やまがたばんとう）が自らの宇宙論を著した『夢ノ代』（ゆめのしろ）など6点を中心に展示しました。

また、展示期間中には見学会「岩橋善兵衛生誕の地をたずねて-紀州街道-」及び善兵衛ランド岡田宏氏による記念講演「岩橋善兵衛とその時代」を開催しました。

いわはしぜん べ い 岩橋善兵衛の望遠鏡を使った天体観測

ぼうえんきょうかんしよようき —『望遠鏡観諸曜記』から—

企画展3「岩橋善兵衛とその時代」で紹介した資料に『望遠鏡観諸曜記』があります。今回は、この資料の概要を紹介します。



『望遠鏡観諸曜記』は、善兵衛の望遠鏡を用いて行った天体観測を記録したものです。善兵衛は1793（寛政5）年に自信作の望遠鏡を完成したようで、7月20日、その望遠鏡を携えて京都の医師橋南谿（たちばななんけい）宅へ向かいました。そして、南谿の友人12人とともに、太陽、月、歳星（さいせい＝木星）、鎮星（ちんせい＝土星）や尾宿（びしゆく、西洋の黄道12星座にあたる中国で作られた星座「二十八宿」の一つ）などを観測しました。驚くことに善兵衛の望遠鏡で、太陽の周囲のコロナや表面の黒点（こくてん）、月の表面のクレーター、木星や土星の衛星などを観測しています。しかも、善兵衛はそれ以前に自身で観測を行っていたようで、太陽の黒点は10数日で移動し、冬から春にかけて数が多いこと、木星の衛星の位置が移動していることなどを南谿らに説明しているのです。

1712（正徳2）年刊の『和漢三才図会』（わかんさんさいずえ）という書物に、日本製の望遠鏡は3里（約12キロ）以上は見えないと書かれていることから、この記録に書かれた望遠鏡がいかに優れたものであったかが想像できるでしょう。そして、善兵衛が単なる技術者ではなく科学的精神に富んだ人であったこともうかがうことができます。

平成15(2003)年度埋蔵文化財発掘調査

平成15年度の発掘調査は12月末日現在、遺跡内の確認調査を47地点、遺跡範囲外の試掘調査を8地点行いました。今年度の調査成果のうち、主な遺跡について時代順に紹介します。

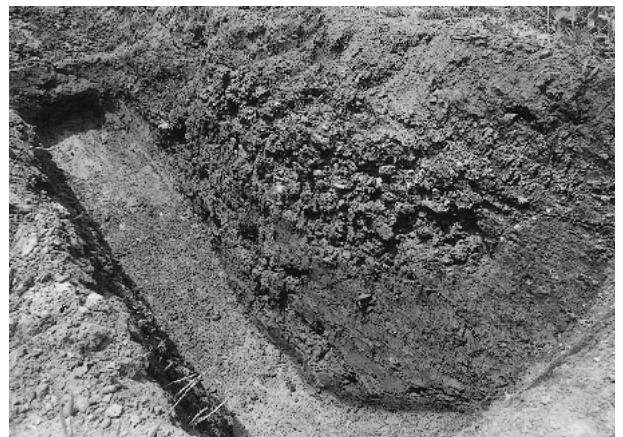
弥生時代：石才南遺跡は、貝塚中央線沿いに所在する遺跡です。調査では、自然流路を検出し、その底部から弥生土器が出土しました。流路の観察により、弥生時代には水はゆるやかに流れており、弥生の人々が生活用水として利用したと考えられます。過去の調査では、竪穴住居跡を検出しており、自然流路と集落とのかかわりが注目されます。

古墳時代：新井ノ池遺跡は、新井ノ池の南側に広がる弥生・古墳時代、中世の複合遺跡です。調査では、5世紀後半～6世紀にかけての溝、落ち込み状遺構などを検出し、遺物は弥生土器、須恵器が出土しました。これまでの調査では、古墳時代以前までさかのぼる自然流路を検出しています。これらの成果により、弥生時代後期から古墳時代にかけての集落が存在していたことが考えられます。

奈良時代～平安時代：麻生中下代遺跡、秦廃寺で古代の遺物包含層を検出しました。三ツ松北垣外遺跡は、木島小学校周辺に所在する中世の遺跡です。調査では、平安時代と中世の遺物包含層を検出し、平安時代の地層下面で溝や土地を造成した痕跡を確認しました。三ツ松地域の農地開発が平安時代には始まっていたことを裏付ける成果となりました。

中世～近世：沢城跡、新井・鳥羽北遺跡、清見遺跡、三ヶ山西遺跡などで中世から近世の遺物包含層を検出しました。加治・神前・畠中遺跡は、市役所周辺に広がる弥生時代～中世の複合遺跡です。調査では、主に中世の農地跡を検出しました。遺構は、土を耕した痕跡である鋤溝（すきみぞ）跡や用水路、畦（あぜ）を検出しました。こうした農地跡の調査は、その地域の環境や農地開発の時期、土地の区画などの情報を知ることができます。

近木川左岸に位置する積善寺城跡は戦国時代の城跡であり、1585年の豊臣秀吉の紀州攻めに備え、出原右京を大将とする総勢約9,500名が籠城しました。調査では、この城の堀と思われる遺構を検出しました。堀の規模は幅8m以上、深さ1.8mを測る東西方向の空堀です。落城後は、防御施設としての役目を終え、埋め立てられていました。その後、新たに溝が設けられ、生活用水路として利用されたものと考えられます。埋蔵文化財の調査ではこれまで城跡に関連する遺構は確認していませんでした。今回の堀の発見を契機に今後、城の具体像を明らかにしていきます。



積善寺城跡（堀の断面）

遺跡名	調査件数	調査面積(m ²)	遺跡名	調査件数	調査面積(m ²)
加治・神前・畠中遺跡	9	544.95	石才南遺跡	2	124.75
貝塚寺内町遺跡	4	61.00	積善寺城跡	2	22.60
脇浜遺跡	2	26.50	沢共同墓地遺跡	1	15.00
三ヶ山西遺跡	1	5.50	沢城跡	1	16.50
三ツ松北垣外遺跡	1	54.50	地藏堂遺跡	1	56.50
小瀬五所山遺跡	2	111.00	地藏堂廃寺	1	6.00
小瀬遺跡	1	7.50	津田北遺跡	1	277.00
新井・鳥羽遺跡	1	34.50	澁池遺跡	1	80.00
新井・鳥羽北遺跡	2	12,649.00	麻生中下代遺跡	3	2,572.75
新井ノ池遺跡	1	68.00	名越遺跡	1	9.00
森城跡	1	18.00	明楽寺跡	1	15.00
秦廃寺	2	16.25	木積観音寺跡	1	15.00
清見遺跡	3	57.00	遺跡範囲外	8	310.90
石才遺跡	1	10.50	合計	55	17,185.20

平成15(2003)年度発掘調査一覧表（平成15年4月～12月末日）

市内の古文書調査から

教育委員会では、貝塚市に関わる古文書を調査し、歴史をひも解く作業をおこなっています。

📖 齋喜家文書 📖

蕎原の旧家にある明治期の古文書類23点を調査しました。この古文書類は、そのほとんどが1904（明治37）年から翌05年にかけてのもので、日露戦争に徴兵された齋喜由松さんが故郷に暮らす家族のもとへ送った手紙です。陸軍の伏見工兵隊に入隊したことを知らせる手紙<1904年4月21日>が最初に出され、その後伏見を出発し馬関（ばかん・現在の下関市）へ向かい<1904年5月19日>、朝鮮半島へ渡ります。朝鮮半島に入ってからのは、工兵として従事した鉄道の敷設や架橋などの作業のほか、戦況についても手紙に書き送っています。帰国の知らせは宇品港（現在の広島市）より届けられました<1905年3月4日>。戦地で脚気をわずらい、その療養のために大阪へ向かい、9月19日には無事伏見に戻り、その報告が最後の手紙となります。



こうした戦争のさなかで取り交わされた手紙のなかで、戦況を伝えているのは日露戦争の特徴で、第二次世界大戦時にはそうした情報が日本にもたらされることは禁じられていました。またこれらの手紙は、遠く離れた戦場にいる兵士と、故郷に暮らす家族との深いきずなを、今に伝える貴重な歴史資料でもあります。

◆次回古文書講座開催のお知らせ

「江戸時代のおひっこし—町人と百姓の暮らし—」

江戸時代の人びとはいつ引っ越しをするのか？人びとの生業による違いを比較しながら、江戸時代の引っ越しが持つ意味を考えていきます。なお、4月10日（土）に初心者講習を行います。ご希望の方はお申し出下さい。

日時：4月17日・24日、5月8日・15日（いずれも土曜日午後2時～4時30分）

場所：図書館2階視聴覚室

申込：必要事項（住所、氏名、連絡先の電話番号）を明記の上、はがき、Email、Fax、電話で社会教育課まで

問合せ先：社会教育課文化財係

表紙の写真 📷

「文化財防火デー」

「文化財防火デー」は、昭和24年1月26日、奈良県の法隆寺金堂から出火、国宝の十二面壁画の大半が焼損したことを契機に、昭和30年から、毎年1月26日を「文化財防火デー」と決めました。以後、1月26日を中心に貴重な文化財を火災から守る運動として、消防演習や文化財の防火設備の点検・整備などを毎年実施しています。本年は1月25日（日）に願泉寺で防火訓練を実施しました。

かいつか文化財だよりテンプス16号



平成16年3月31日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市島中1丁目17-1

☎ (0724) 33-7126

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.osaka.jp

印刷 (株)中島弘文堂印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します

年2回発行：各1,000部

印刷単価136.50円